

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本 事項	計画コード	事業名		部名	産業建設部
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業		課名	産業振興課 森林林業G
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務	会計
	基本施策	08:自然との共生		科目	01:一般会計
	施策の方向	02:森林・里山・農地の保全		項目	06:農林水産業費
戦略プロジェクト	04:「ジモトココロ」プロジェクト		目	01:農林水産業費	
事業予定期間	H 26 ~ R 5 年度	主な根拠法令要綱等		みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施要領	

目的 概要	対象	市民・団体
	目的	税導入の趣旨である、近年の集中豪雨などにより山地災害が増加していることから「災害に強い森林づくり」と、将来にわたり災害に強い森林を引き継いでいくため「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進する。
概要		「災害に強い森林づくり」として、危険木の伐採や荒廃した里山や竹林の再生など「暮らしに身近な森林づくり」に取り組む。また、「県民全体で森林を支える社会づくり」として、人材の育成や学校等における森林環境教育・木育教室を開催し「森と木材と市民をつなぐ学びの場づくり」に取り組む。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	事業内容	森と木材のふれあい事業 ・森の講座(チェーンソー講習)の開催 ・幼稚園・保育園での森林学習等 里山・竹林生活環境保全事業 ・自治会等による竹林整備の支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援 (参考:他事業にて実施するもの) ○危険木等伐採事業(公園管理)	森と木材のふれあい事業 ・森の講座(チェーンソー講習)の開催 ・幼稚園・保育園での森林学習等 里山・竹林生活環境保全事業 ・自治会等による竹林整備の支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援 (参考:他事業にて実施するもの) ○危険木等伐採事業(公園管理)	森と木材のふれあい事業 ・森の講座(チェーンソー講習)の開催 ・幼稚園・保育園での森林学習等 里山・竹林生活環境保全事業 ・自治会等による竹林整備の支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援 (参考:他事業にて実施するもの) ○危険木等伐採事業(公園管理)	
	実績	○森と木材のふれあい事業 ・森の講座の開催 1回 ・森林学習などの開催 3回 ○里山・竹林生活環境保全事業 ・ウッドチップの貸出しによる里山・竹林整備面積0.05ha ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援 ・イベント3回開催 参加人数 300人	○森と木材のふれあい事業 ・森の講座の開催 1回 ・森林学習などの開催 3回 ○里山・竹林生活環境保全事業 ・ウッドチップの貸出しによる里山・竹林整備面積0.09ha ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援 ・イベント6回開催 参加人数 200人		
事業の計画・実績	計画額	事業費	3,500千円	3,500千円	5,000千円
		国庫支出金			
		県支出金	3,500千円	3,500千円	5,000千円
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	3,487千円	3,485千円	
		国庫支出金			
		県支出金	3,457千円	3,455千円	
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	3,465千円	3,482千円	
		国庫支出金			
		県支出金	3,457千円	3,455千円	
		地方債			
		その他			
人件費	一般財源	0千円	0千円	0千円	
	総人件費	3,925千円	3,920千円	0千円	
	一般職員	3,925千円	3,920千円	0千円	
	所要人員	0.50	0.50		
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		7,390千円	7,402千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称 森の講座(チェーンソー講習)受講者数	計画値 10	10	10
		実績値 4	5	
		単位 人	人	人
	名称 里山・竹林整備面積	計画値 2	2	2
	地域まちづくり協議会や森林保全団体による里山・竹林整備面積	実績値 0.05	0.09	
		単位 ha	ha	ha
名称	計画値			
	実績値			
	単位			

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 森林の持つ多面的機能の情報を発信する事業を実施し、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の支援を行う。また市自然公園「やまびこ」の老朽化した箇所を整備する。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 森林の持つ多面的機能を情報発信するためのイベントを実施し、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会イベントの支援を行った。ホームページや報道機関を通じて、森林の持つ多面的機能についての情報を発信することができた。市自然公園「やまびこ」の八橋の一部整備など、安心して利用できる環境づくりに努めた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 「災害に強い森林づくり」では、里山・竹林の整備を実施する団体へウッドチップの貸し出しを行い活動支援を行った。 「県民全体で森林を支える社会づくり」では、チェーンソー講習や市内保育園等3園での木育教室実施、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会主催のイベント支援を行い、木材利用、森林整備、森林の持つ多面的機能の大切さを学ぶ場を設けた。また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会のイベント支援では、講師を招きイベントに応じた講話をいただくなど啓発に努めた。市自然公園「やまびこ」の八橋整備を行った。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 指標の計画値には至らなかったものの、「みえ森と緑の県民税市町交付金活用計画」に基づいた事業を計画どおり実施した。また、ホームページや報道機関を通じて森林の持つ多面的機能についての情報発信を行うことができ、「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」の推進に寄与できた。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 みえ森と緑の県民税導入の主旨である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」推進のための事業に取り組んでいるが、より広く浸透させるため継続して取り組むことが大切である。 市自然公園「やまびこ」をより安心して利用できるよう整備に取り組む必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合、その内容を記載]
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 森林の持つ多面的機能について知っていただく機会を設ける。 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会イベント参加者で森林、環境に関心の高い方による鈴鹿川等源流の森林づくり協議会イベントの企画などに取り組む。 前年度に引き続き、市自然公園「やまびこ」の整備を行う。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 森林や木材について、学び、触れ合う機会を設けるとともに、市自然公園をより安心して訪れられる環境を整えることで、森林と市民の関係が身近となり、税導入の主旨である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進することができる。	
対応時期		令和3年度	

【1次評価者】	産業建設部 産業振興課 森林林業グループリーダー 葛西 裕二
【最終評価者】	産業建設部 産業振興課長 富田 真左哉

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A	A	
	成果	B	B	B	B	

令和2年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		3,485 千円
内訳	令和元年度からの繰越額	千円
	令和2年度の最終予算額	3,485 千円
	令和3年度への繰越額	千円